

1年間を振り返って

看護学科第41期

上田 しのぶ

柔らかな暖かい春の光に、少し冷たい風が吹き上げ梅の花の匂いを遠くに感じるこの頃、入学した時と同じような風景を思い出し、この一年を振り返りました。

一年前、私がこの熊谷市医師会看護専門学校に入学したいと思ったのは、准看護学校で学んできた知識をさらに深め成長していきたいという気持ちと、入学前の体験授業で複雑ながらも理解しやすく、自分の経験に沿う知識を学ぶことができ、入学後の生活に結びつけることが想像できたからでした。

入学してから准看護師として働く上で、初めて覚える業務もたくさんあり、資格を持つという責任感の重みのなかで、仕事を終え学校に通うことは容易ではないことは理解していたものの、思う以上に大変だと感じることもありました。ですが勤務を終えた後の授業は、准看護学校で学んでいた時以上に、臨床の場で経験したことに繋がると実感できました。学ぶことの重要性を再度実感し、これから沢山の事を吸収していきたいと思い、学校行事を通じてクラス全員との関わりを楽しみにしていました。

しかし今年は新型コロナの影響により入学式をはじめ、歓迎会も形が変わってしまいました。

授業の縮小など学校生活にも大きな変化があり、クラスメートと直に交流ができない事に寂しさを感じていました。ようやく授業の再開となり、コロナ感染対策をしながら授業を受けることができた時は、今までとは違う環境で授業を行うことに戸惑いましたが、そのような状況でも外部から講義に来ていただいている講師の方には感謝の気持ちでいっぱいになり、また今まで気付けなかった周囲からの優しさや、困難な時こそ支え合う人との繋がりの大切さを考える機会になったと思っています。

コロナで生活が一変し残念なこともありました。どのように日常生活を送り、看護を行えば良いか改めて看護学生として意識を高めながら過ごしてきた一年でもありました。

私たち41期生は、年齢や経験も様々ですが、どんな困難もひるまず、目的に向かって、勇敢に前へ突き進むことを忘れずに、という思いを込めて「勇往邁進」を三年

間のクラス目標として掲げました。この目標を決して忘れずに41期生全員で看護師国家資格の取得を目指し、そしてコロナで感じた人との繋がりに感謝をし、それぞれの目指す看護師に近づきたいと思います。